

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

◆次回の発行は、5月16日号です。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース/国会
- 3面 読者のページ/まんが/俳句/詩
- 4面 5面 軍拡(防衛)増税NO!/ジェンダーリレー講座/ホットライン
- 6面 NPT再検討会議って?/大軍拡/時事・クローズアップ
- 7面 新婦人の活動/主張/母の歴史



京都市 長濃継子



会員の皆さまに感謝を込めて原田新市長の(3月29日)写真提供:東京民報

東京・清瀬市長選挙(3月29日投票)で、無所属新人で元市議の原田ひろみさんが初当選を果たしました。原田さんは新婦人の会員でもあります。長年の市民運動の積み重ねが実を結びました。地域はもちろん、全国からも喜びの声が寄せられるなか、新婦人清瀬支部の事務所を訪ねました。

東京・清瀬市

「まさか」の勝利と手応え
「本当に劇的でした」。そう語るのは支部長の木幡文子さん。日本共産党の元市議の原田ひろみさんは、共産党、社民党、新社会党、緑の党の推薦を受け、無所属現職の前市長(自民・公明推薦)を破ったのです。

破れないことが続いていたから、開票結果を見て「まさか」としばらく信じられなくて...と支部のみなさんから口々に語られました。しかし選挙戦が進むにつれ、空気は大きく変わりました。

「終盤になると『もう入れてきたよ』『がんばってね』と声をかけられることが増えた。こんな経験は初めてでした」



支部長の木幡さん

市民を無視する市政に怒り

街頭ではこれまで「邪魔者扱い」されることもあった宣伝活動が、次第に受け入れられ、若い世代が足を止めて演説を聞く姿も見られました。話を聞こうと待つ市民とは、「原田さんが今までこんなになんぼってきただんですよ」と対話も広がったと言います。

原田さんへの支持が広がった背景には、市民にとって具体的で身近な政策課題がありました。「図書館の廃止、出張所の統合、学校プールの廃止、その一方で2億円を超える豪華列車の設置... 私たちの暮らしに

直結するところは次々と削りながら、巨額の無駄づかいがひどすぎました」と木幡さん。特に図書館問題は大きな転機となりました。2024年、突然、当時の市長から6館中4館を廃止する計画が示され、市民の間に強い衝撃と怒りが広がります。「説明もなく、一方的に決められた。議会でも当時市議だった原田さんの質問に答えられない。そんな市政への不信が積み重なっていった」と話すのは事務局長の木下みな子さん。

〈2面へ〉

わたしたちの市長が誕生!

寄稿 大事なことは市民が決める

清瀬市長 原田ひろみ

今回の清瀬市長選挙は、市民の勝利でした。地域図書館や市役所出張所、学校プールなどが廃止され、「勝手に決めないで」と市民があげた声にも背を向ける乱暴な市政に、多くの方が憤り、深く傷ついていました。

対話によるまちづくり、隠しごとのない透明な市政をつくりたい。この挑戦に、多くの方が立ち上がり「大事なことは市民が決める」住民自治と公共のあり方を問う選挙になりました。まちづくりの主演は市民です。その実現へ歩みたいと思います。

常に平和を求め、女性の権利や子どもの幸せのために行動する新婦人の存在は希望です。これからもともに力を合わせましよう。



SNSで毎日拡散されたバナー。新婦人次世代も参加した勝手連が作成

原田ひろみ 熊本県生まれ、日本福祉大学社会福祉学部卒業。2003年の清瀬市議会議員選挙で初当選、以降6期23年務め清瀬市議会副議長等を歴任。「誰もが人として大切にされる社会」を目指し、市民とともに運動を広げ実現させてきた。

